

には、四つの心が必要です。「克己(こつき)」と「恕(じよ)」さらに、「忠」、そして、「信」です。「克己」は、我意(がい)が、わがままな自分勝手な気持ちを抑えることです。「恕」は、自分がされて嫌なことを決して他人にしないこと、思いやり優しい、慈しみあふれる心です。「忠」は、他人を欺(あざむ)かないこと。「信」は、他人を欺かないように自分も偽(いつわ)らないことです。そう考えますと、「仁」という人間の理想に近づく四つの心の実践は、至難の業(わざ)といえるでしょう。

◇新型コロナウイルス感染症が猛威(もうい)を振るい、終息のきざしどころか拡大を続けています。歴史を振り返ると、感染症の拡大は、戦争とバブル経済の崩壊に並ぶ、世界経済の三大リスクなのだそうです。二十世紀以降の百二十一年間に、感染症の大流行が十二回、大きな戦争が十回、国際金融危機が二回あり、二つ以上が重なる深刻な不況となっているそうです。スペイン風邪と第一次世界大戦、新型コロナウイルスエンザとリーマンショックなどがその例だそうです。がん研究の第一人者は、「人類が二十一世紀中にがんを克服できる可能性は大きい。しかし感染症との闘いは永遠に続くだろう」と述べられています。また、平成二十七年に、マイクロソフトの創業者のビル・ゲイツさんは、「次の世界の危機は戦争でなくてウ

イルスだ」と話されたそうです。まさに、今、感染症との闘いの始まりで、ウイルスの危機に見舞われています。緊急事態宣言が出されている今、人間の理想の姿になるために至難の業である四つの心を実践すべき時ではないでしょうか。自粛は、「克己」でありますし、自分と同じように大切な人の命を守る、思いやりの心と行動が、「恕」であり「忠」であります。そしてなにより、慎み深い生活を心掛ける「信」ではないでしょうか。その「忠」と「信」が、季節の移ろいの自らいさぎよく花びらを散らす、「義」でもあります。

◇「徳をおもいて怠らず それ敵すべけんや」、季節の移ろいにこめられた「仁義」こそが、人間の理想の姿、道徳の理想であることに思いを馳せつつ、大いなる徳こそが無敵であることを信じて、落ち着いた日常生活を送りたいものです。御自愛ください。

◇三月の祭典行事会議等活動報告

▼月次祭 *三月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭 *三月一日

▼南風泊恵比寿神社例祭 *三月十五日

▼新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭

*三月十五日

▼春季祖霊祭 *三月二十日

▼神社庁支部関係

◆祈年祭、神宮大麻頒布終了奉告祭

*三月九日

◆下関支部大麻頒布終了奉告祭

*三月十七日

▼教誨師関係(美祢社会復帰促進センター)

◆釈放前講話 *三月二日

◆集合教誨女子 *三月二十三日

◇四月の祭典行事会議活動報告ならびに予定

▼月次祭 *四月一日、十五日

▼貴布祢神社月次祭 *四月一日

▼竹の子島金刀比羅宮例祭ならびに新型コロナウイルス感染症流行鎮静祈願祭

*四月五日

▼荒神社例祭 *四月九日

▼舟島神社例祭ならびに佐々木小次郎剣客大人命慰霊祭 *四月十一日

▼彦島地区戦没者慰霊祭 *四月十五日

▼南風泊網おろし *四月二十六日

▼昭和祭 *四月二十九日

▼神社庁関係

◆教化部代表者会議 *四月二十日

▼下関西ロータリークラブ

◆理事会*四月一日、二十二日

▼教誨師関係(美祢社会復帰促進センター)

◆集合教誨(男子) *四月二十七日

▼その他

◆迫町自治会役員会 *四月十六日